京城新聞

●偶感一束

翠山生

▲汽車汽船の進行は荊に早きものなり、同時に日月の經過も亦速なるものなり、總務長官鶴原氏が伊藤公に隨行し尻に帆を揚げて漢城の地を出立されてより早や既に二旬、而も五百里の行程海陸僅か六日にして花のお江戸へ到着せられたり、吁々在韓滿三箇年間の日月京童の所謂不鳴不蜚の枯禪的生涯を送りし氏にありては口にこそ出さね思ふに其の胸中に於ける感慨果して如何なるものぞ、時運轉化今は昔懷かしき同人知己の活動蓬起せるものあるを見ては「年々歳々花同じ、年々歳々人不同」なる寥寞沈抑の感想に切々無限の情の禁ずる能はざるものあらん乎

▲凡そ名譽を專らにし權勢を先きに張らんと欲するものは必ず失敗す、實力、經驗、修養含蓄の重大要素にして充分に其の身に備はるものなくんば人は決してソレに伴はざる野心慾望を抱くべきに非ず、而りナポレオンは偉人なり、而も彼が最後の挫折は天命なり、然れども平將門に至りては是等偉人の資格及び實力修養含蓄の要素なくして一意天下を覬覦せんとす彼れが失敗は固より當然なり、

▲鶴原氏不幸にして平將門の亞流を汲む、終局の蹉跌蓋し固より其の所たり、而も氏が小膽にして怯懦なる偏に伊藤公の鼻息をのみ離れ窺ふに努め其所謂森儼なる鶴の一聲に對しては唯々諾々何等抗辯の勇氣あるなし、思ふに名利光譽權勢の權化を以て任ぜんとする者にありては飽迄熾烈にして猛適なる抑制心の下に凡を犧牲として之に對するの覺悟なかるべからず、然りと雖も又圓轉滑脫徐ろに人情の機微を穿ち、迂餘曲屈巧みに事相の幽玄を探り依つて以て自己を支配制御する上長者を控制し抑壓し且つ併せて自己の名譽權勢を得んとするもの世間又其の例に乏しからず而り亦是れ一個巧慧なる手段には相違なきも思ふに氏の如き性質の人物にありては到底之を行ふに適當せざるなり

▲上長者の一言に畏縮恐怖して何等抗辯の勇氣なく、而して又之が上長者の弱點を把握して不斷克く控制抑壓の妙手腕なしとせば氏が常に名譽、權勢、威望を得んとするの係念は果して何れの時にか得らるべき、余輩は寧ろ氏の心中を忖度するに苦むものなり、重ねて語を換へて言はん、氏は睨みの利く人にあらざる代りに又他の睪丸を掴み得る男にもあらざるなり、

▲されど又飜つて考ふれば余輩は氏が今回の歸朝に對して哀心同情の念に堪へざるものあり、もし果して甚間傳ふるが如く氏が今回の歸朝を以て永遠の歸朝なりとせば余輩は呉々も氏に對して憫憐の念を催さゞるを得ず、而して同情の心、憫憐の念さは何ぞや余輩他日稿を改めて之を述べん、

●釜山の穀物輸出入

釜山穀物組合に關する昨今兩年七月中の輸出入對照表左の如し

	明治四十年七月輸入額	同四十一年七月輸入額	比較増減
	叺	叺	○増△減
米	一七六七一	二二九八二	○五三一一
麥	二〇二	四二	△一六〇
豆	五九六	九九七	○四〇一
計	一八四六九	二四〇二一	
	同年月輸出	同年月輸出	
米	一〇二七〇	三七八七一	○二七六〇一
麥	○	六九	○六九
豆	五三九五	四五一四	△八八一
計	一五六六五	四二四五四	

以上對照表中税關調査と異る點及び輸出入に差違あるが如きは組合員以外の人にして直接輸出入を爲せる人ある爲なり而して川口廻り即ち洛東江附近より出廻る今月の石數は米四〇七三麥三四四豆二九〇合計四七〇七なり

●外國貿易旬報

（七月下旬關税局調査）

區別	本旬分 本年分	前年同期
輸出品價	二三四、九七七	二三四、〇〇六
輸入品價	一、〇四四、五四六	八五三、五九五
合計	一、二七九、五二三	一、〇八七、六〇一
輸入超過		

本年貿易額の港別左の如し

港名	本旬分 輸出額	輸入額	計
仁川	一五、九二九	五〇三、八五〇	五一九、七七九
釜山	一〇三、三二八	二四四、三〇〇	三四七、三〇〇
元山	一八、九六三	七六、六一〇	九五、五七三
鎭南浦	三三、九四一	六六、六〇七	一〇〇、五四八
京城	五五五	一一五、九〇三	一一六、四五八
群山	一九、四二〇	一四、三〇二	三三、七二二
木浦	一二、二二四	九、九六九	二二、一九三
馬山浦	六、一六六	二、九七九	九、一四五
清津	一、五〇八	一五、三三四	一六、八四二
城津	五、八四四	一〇、八九九	一六、七四三
新義州	一五、七六九	三、二七二	一九、〇四一
計	二三四、九七七	一、〇四四、五四六	一、二七九、五二三

次に本年各港の貿易額を前年同期に比較するに左の如し

港名	前年一月以降本旬迄の累計 輸出額	輸入額	計
仁川	二、一三六、九七七	一〇、六九六、六〇四	一二、八三三、五七四
釜山	二、一三六、九五五	四、六七〇、二二三	六、八〇七、二二七
元山	六〇四、〇二六	一、六〇四、八三四	二、二三八、八六〇
鎭南浦	九七七、九九四	二、〇六五、六六二	二、九九三、六五六
京城	三、三六二	二三三、九九〇	二三四、三五二
群山	一、一六一、一六七	二四八、六四二	一、五〇九、八〇九
木浦	六六九、九四九	三五五、二三七	九八五、〇八六
馬山浦	一三六、五二三	六〇四、七一七	七四三、二三九
清津	一〇五、一一三	二三四、七五四	三三九、八六六
城津	―	―	―
新義州	二六四、一一三	二六七、五二一	五三一、六三三
計	八、一三五、一八二	二〇、九八二、一三三	二九、一一七、三一四

●天長節の始

浮世ぐさ

聖上の御誕辰を祝することは光仁天皇寶龜六年十月十三日に始りて天長節の名も當時すでに有り近くは明治元年八月廿六日に聖誕日（九月二十二日）を以て天長節と稱し百官に御宴を賜ひ刑を行ふを停めらるゝ旨を布達せられ四年（雜誌）十五號には九月廿二日聖上御誕辰により百僚千官天長の佳節を拜賀す上之に御宴を賜ひ衆庶と歡樂を同ふし給ふ、第十時御出門馬車に御し陸軍の整列を巡覽あそばされたり、且つ此良辰を賀し奉らんため外國の軍艦祝砲數發を發す又濱殿延遼館に於て各國の公使を饗せられたり云々の記事あり さて太陽暦頒布により六年七月廿日を以て御祭日御祝日等の月日を推歩し本月廿四日より改正の通り行はるゝ旨を布告せられ天長節は以來十一月三日と定まりたり

天長節　田中鷹

旗影飄飄遍市闤、晩秋風物不等閑、豈唯士庶頌盛德、隱逸黄花亦笑顔

小説　新不如歸（七十三）

篠原嶺葉著

尾花敏男は、西脇義祐が一方ならぬ心盡しに、有繁至難の取調も意外に早く結了したので、三ケ月の豫定で派遣されたのが僅々二ケ月ばかりで、嚴密の取調をなし西脇と盡きぬ名殘に袖を別ちて歸朝の途に就いた、そして海上も無事で神戸に着船したゆゑ、上陸すると直に何時何十分發列車に乘込んで歸京する旨を、東京なる自宅へ電報で報知て置て、發車時刻の來るまでと、唯ある料理店に入つて午餐を喫し、やがて汽車に乘込むで新橋に到着したは、翌日の午前七時過であつた、定めて百合子が美しく粧を凝らして、迎ひに來て居るであらうと勇みでプラットホームを辿つて檢札口を出たが、何れを搜して見ても百合子の其らしい姿も見ねんのみならず、唯一人迎へに來て居らぬので、奈何した事かと心密に不滿を抱きながら、直に車を驅つて我家にと急がした。

そして、車夫の威勢よき「お歸り……」の掛聲に、嘸百合子が莞爾々々しながら玄關に迎へるであらうと思ひの外、繼母の加奈子を始め一二の召使が、慌しく出迎へたけれど百合子の姿は見へない、一同へは式ばかりの挨拶をして、やゝ怒氣を含みながら心も不覺に我が室に入つたけれども、室には百合子の姿は見ゑずして、唯櫻炭を埋めた火桶のみ人待顏に冷たき室内に僅に温かさを與へて居る奈加子は室に入つて、

「さぞお疲れが出たでせう、先お洋服を脱いで着物と着換へては奈何だね。」

と、云へば、敏男は不滿さうな調子で、

「誰か新橋へ迎へに來て下れるだらうと思つたに、迎へに出んばかりぢやない、車も迎へに來て居なかつたが、神戸から打つた電報は達きませんでしたか。」

「いゝえ電報は屆きましたけれど、十時過でなければ新橋へ着かないと云ふ事でしたからそれでツイ……。」

「神戸を一時に乘込むと云ふのに二十時間もかゝつて堪るもんですか、愚々しい……遙々滿國から歸つて來たのに、迎へにも出ないと云ふのは……。」

新橋に着車以來の不滿を、漸く爰に發したもの、有繁に奈加子も何となく良心が咎むるので言難さうな樣子で、

「其の百合子の事に就いてね、種々話さにやならん事があるのだが、まあ洋服でも脱いで寬いでは如何だね。」

意味ありげな奈加子の辭に、漫に胸の躍るを覺えて。

「ナニ着物なんか如何でも可いです、百合子が如何か爲たと仰有るんですか、どうぞ早く話して聞かせて下さい、如何したのです。」

奈加子は態と落着た態度を示し。

「お前が聞いたら嘸驚くであらうけれど、百合子は離縁爲ました。」

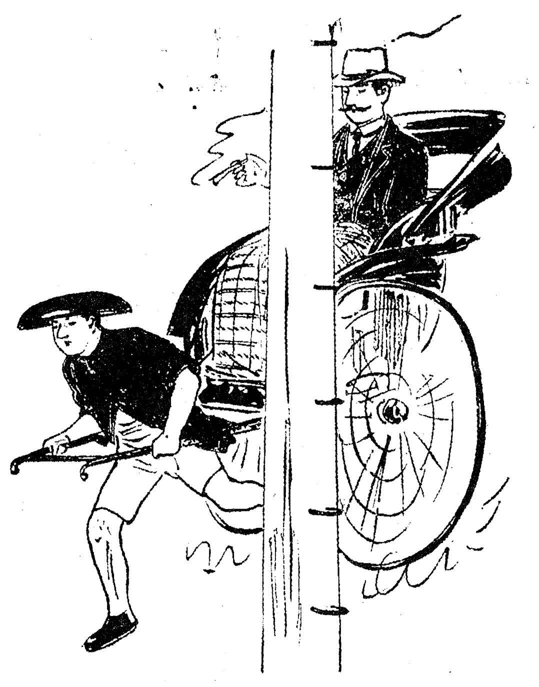
「ゑゝッ……そ……それは又何故です」

と、早や聲も顫へを帶び、眼は疑惑に輝いて居る。

「何故と云つて、お前の不在に道ならん事を爲ました。」

「ゑゝッ道ならんことを……。」

「はい、不義を働きました。」



（二）（第三種郵便物認可） 明治四十一年八月七日 京城新聞 （金曜日） 第廿九號

地方行政の刷新

地方行政刷新の一着手として郡守任命の方法を改められ、從來中央に於て任意に撰擇し或は賄賂等によりて任命せられたるものが、今回は觀察使をして其地方に名望あるものを撰擇せしめて任命することゝせられたり、元來地方行政の腐敗は牧民官に其人を得ざるが爲なり、之を刷新するには人民に直接する郡守に硬直正廉なる人物を擧るを要す、當局者も亦此考を以て任命方法を改められしならん、其着眼當を得好しと雖も任命方法を誤れるを以て更に其効力なし、若し夫れ皮相の考よりすれば中央に於てなしたる腐敗せる撰擇法を廢して、之を地方に移して其地方の名望家を擧ることゝすれば弊害を除却し得べしと思はるべし、然れども如何せむ、觀察使其人を得ざるに於ては此弊害を除却し得べからざると共に地方行政の刷新は得て望むべからざるなり、唯に中央任意の任命を地方に移したると同一結果に終るのみ、余輩の擔受せる報導に依れば今や地方に於ては郡守運動熾にして觀察使に賄賂するものゝ尠からずと、夫れ或は然らむ、觀察使韓人たる以上は此弊害は到底除くこと能はざるべし、亦更に聞く所に依れば渠等が郡守運動をなすには從來の如く中央に於て幾多の方面に運動するよりも、地方に於て觀察使のみに依ることの容易なりと揚言するものさへありと、斯る狀勢なれば今回の任命方法に於て良郡守を得ることは到底不可能なり、從て地方行政の刷新も擧らざるは當然なり、當局者は現在の狀況に顧みて如何の感かある、然るも尙ほ其目的を達し得べしとなす乎、余輩は現今の儘にして改むることなくんば地方行政の刷新は百年河淸を俟つに等しと斷言して憚らず、地方行政の刷新は方今の急務なり、韓國民をして保護政治を眞に謳歌せしむるは地方政治を改善して安寧利福を與へざる可らず、伊藤統監茲に見る所ありて地方の改善に着手せられしと雖も、事情に暗きが爲に此誤謬に陷入れり、然らば其改善は如何にして可ならん乎、余輩が嘗にも唱導したるが如く、二三の觀察使を日本人となして改善の方法を計るに若かず、之を模範として漸次に他に及ぼすの策を取るの外あらざるなり、郡守に其地方の名望家を推擇するは可なり、唯韓人觀察使に一任するに於ては前に述べたる如き弊害は除却し能はざるなり、全然此弊害を除却し眞に地方行政の刷新を計らんとせば日本人を以て觀察使となさゞる可らず、然れども一時に之を斷行するを許さゞるの事情もあらん、故に二三の觀察使に日本人を任命し之を模範として漸次に一般の改善を計るは最も穩當なる好政策ならずや、之れ余輩の杞憂に堪へざるもの當局者に向て注意を與ふる所以也

●漢城便り

▲京城民團議員の統監府へ呈出したる民長官撰に關する府令撤癈の請願書は却下せられたりとの事に御座候余輩は統監府の遣口がドコまでも中世紀式にして所謂思ふ所と爲すところとを同ふせざる事を悲しむものに御座候

▲過日當局は言へり官民は一致して韓人指導の任に當らざるべからずと而かも當局の居留民に對する遣口今日の如くんば官民一致はおろか今后益々意志の阻隔を加へ遂には吳越の間柄となるやも計られずと存候

▲申す迄もなく在留十五萬の居留民は等しく是陛下の民に有之候統監府にして陛下の民を扱ふに恰も吳人の越人を扱ふが如しとせば悲しむべき結果は將來に於て起らざるべしとは斷言相成兼申候

▲曾て余輩も申せし通り民長問題は戰爭前に於ける日露外交問題の如き大問題には無之候併し在留十五萬の同胞にとつては居留地創設以來の大問題に御座候居留民發憤の理由玆に有り統監府が本問題に對する態度の愼重なるべき理由も玆に有之候

▲統監府が請願書を却下したればとて失望するには及び不申候來るべき議會は必ずや民長問題に關し否民長問題と同時に韓國關係の諸問題を解決するに好適なる戰場なりと被存候白く塗りたる墓中の消息を議場に展開し統監君の目を醒ますは今日の處最も急務と相成申候

東京電報

▲隘勇線前進

臺灣新竹苗栗間に跨る隘勇線の前進は漸次南方に向ひつゝあるも蕃社の狀態に何等の變化なく至極平穩に作業し居れり

▲浦鹽自由港閉鎖

ハルビン總領事の發電に依れば極東自由港の閉鎖は明年一月一日を以て實施すべしと（以上五日發）

雜報

●伊藤統監の上京

伊藤統監は五日午後六時大磯に歸り本日再び上京さるゝ筈なりと其筋へ電報ありたり

●特許局新設

統監府にては今回韓國に於ける意匠及び商標登錄其他特許に關する事務を取扱ふ爲め特許局を新設すべしとの說あり

●警察部長會議（第四日）

六日は午前八時より開會し松井警務局長議長となり警務局各課長列席し先づ別項記載の警務に關する注意事項を示し次で劉衛生局長衛生上の注意事項を演說し且つ將來の希望を述べ終りて武石會計課長より

一、各道警察費の節省を期する事
二、警察費豫算配賦上の均衡を期する事
三、會計事務の整理を期する事

及び會計事務中矯正すべきものと認めたる十數件の事實を述べて注意を促かし午後は事務打合せ會とし二時散會す尚本日は午前八時より開會し諸問事項を議する筈にして同夜は七時より一同花月なる法部大臣の招宴に赴く

●岡次官訓示演說（續き）

術韓國人たる警察官敎養に努められん事を望む聞く處によれば韓國人は敎へたる事は能く此れを遵守し姿勢規律の點に關しては能く此れを守る性格を備へ居ると云ふ果して然りとせば此れに對し充分に警察の本旨を注入せば必ずや其の効果あるべし故に諸君は申す迄もなく韓人に對しては日語を敎授し能く此れを指導誘掖し又日人警察官をして韓語を學ばしめ協力一致して其の職に當らるゝ事を熱望に堪へず若し韓國人警察官吏の經驗なく未熟なるの故を以て此れを度外視するが如き事あらんか警察機關の運用上憂慮すべきのみならず日韓警察官吏聯合の本趣に反するものと云ふべし諸君は特に此の點に留意せられたし又假令日本人警察官は韓人に優るも經濟上其の他の關係上日本人警察官のみを增加する事は不可能の事に屬す寧ろ將來の方針としては韓人警察官を增加せざる可からざるなり諸君は能く韓人警察官と雖も監督巡視の勵行せられざる結果は職務執行上往々批難を受くる事なきに非ざるにより充分其の監督に努められたし閭巷の言盡く此れを信ずるに由なきも烟の存する所豈火無からん不正行爲は勿論警察官吏として勤務時間中浴衣を着し散漫たるの狀は極めて見苦しく紀律の點に於て此れを觀過し能はざるなり地方に至れば如斯者絕無なりと言ふ事を得ずと聞く特に諸君の監督注意を望む又遠來の日本人警察官に對しては相當の慰安方法を講ずる事も必要なり要するに日韓人共に能く指導敎養し能く其職に安んじて心を盡さしむる樣此れを善導する事肝要なり諸君の部下たる巡査が不都合なる行爲あるときは結局監督長官たる諸君の不都合と云ふ事に歸せらるべし此等敎養其の他に關しては從來も無論督勵の事と信ずるも將來は層一層の御督勵ありて賞罰を嚴にし監督巡視を嚴にせられ中央又は地方監督者の巡視監督等を待たずして何時も自信ある整理實行に努められたし又道に任りては觀察使が警察權の主體にして諸君は其の補佐として職務を執行し一方に於ては他の警察署長を指揮監督するの機關となり居りて諸君が警察權の主體にあらざる事は篤と記臆を望む所なり現觀察使は幸にも日本の事情に通し居るもの多數なれば事務處理上最も便利を得る處なるも若し日語等に通せずして日韓の事情にも暗きものありとせば宜敷諸君に於て事の判明する迄事實を聞かさるべし若し不當なる命令なりと思ふ事ありとするも一時に激する事なく穩かに此れを諫めて補佐官たるの任務を怠るべからず從來觀察使其の他に關する不都合の行爲に付き多々報告せらるゝ向きあるも他の非事を摘發するを以て能事とせざる事に注意を望む日本に於ても地方に警部長を置かれたる最初の時代に在りては知事其の他の非行のみを摘發するに汲々たる事もありしと云ふ諸君は宜しく此れ等の摘發よりは可成不都合無からしむる事に努めらるゝを要す尤も實現せる事實を隱秘せよと云ふの意にはあらざるに付誤解なきを要す諫めて聽かず强て非行を遂げんとするものあらば其の時こそ遠慮なく報告せらるべし（未完）

●松井局長の注意事項

道警察部長會議に於て松井局長が示したる警務に關する注意事項の重なるもの左の如し

一、警察職員の配置に關しては人員の不足に依り周到を期し難きのみならず施設匆々に際し機宜を缺く虞無しとせず能く地形を利用し土地の狀況に應じ適所に適當の人員を配置し相互の連絡を保持し執務の機敏と周到を期せられたし

一、日本人警部巡査にして韓語を解せず韓人警察事務の執行上至大の不便を感じ警察の刷新改善を阻害する事尠からず日韓人共語學の敎習に努め此の不便を除去せられたし

一、操銃の練習武術の練習は精神敎育上の効果顯著なるのみならず非常の準備に必要なるを以て此れが敎養に努められたし

一、日人巡査の採用は其の募集及び敎習の關係上從來の如く內部に於て此れを取扱ふも韓人巡査の採用及び敎習は從來各道に於て適宜此れをなし將來も亦各道に於て此れを取扱ふに付ては一定の試驗を遂げ且つ其の身元の調査を爲し可及的適當なる人物を得るに努められたく又其の敎習に付ては實科及び精神上の修養に重きを置かれたし

一、多數の巡査中韓國の風俗人情其の他習慣を知悉せず或は此れを知悉するも職務執行に當り事に害なきに拘らず徒らに習慣を打破し惡感を抱かしむるが如きことなきに非ず固より從來の弊習は此れを改めしむるの要あるは論を待たずと雖も部下官吏をして能く地方の狀況に精通するに努めしめ事に害なきものは俄に其の習慣に反するが如き事なからしめ漸を追ふて此れが改善を期せられたし

一、從來地方人民の特に上京して當部に請願書を提出し滯京其の指令を待つもの少しとせず而かも其の請願に係る事項は何れも些細にして必ずしも當部の指令を要すべきものに非ず寧ろ地方官署の裁定に待つの便利なるに如かざるものあり依て今後便宜の方法により人民をして地方官廳を差置きて直ちに當部に請願するが如き事なからしむる樣取計はれたし

一、人民より官廳に差出す請願書其の他文書は今尙二通を提出せり此れ因襲の久しき舊慣を蟬脫せざるにあるべきも中には一通のみを以て足ることを未だ一般の周知する處とならざるに依るが如し之等は揭示其の他の方法を以て普く一般に周知せしむる事を計られたし

一、職務に殉したる者に對しては其功績を表彰し其の遺族を慰藉し以て一般の元氣を鼓舞するは必要の事なるに拘らず往々遺族に對して慰問せざる等の事あるやに聞く自今各署長をして職に殉したるものありたるときは直ちに電報を以て遺族に此れを通知し且つ其の殉職の狀況を詳報し其の他遺物の送致等懇切なる取扱を爲さしめられたし

其の他十數項

●即位紀念祝賀會

來る二十七日は隆熙帝の即位第一回紀念日なるを以て祝賀會を催さんと去る四日石坡樓に於て協議會を開きたることは既報の如くなるが當日は兪吉濬外三百餘名出席し協議を凝らしたる漢城五部四十八坊一致協同盛に祝賀の意を表することゝし五十名の委員を撰定して寄附金を募集し之れが費用に充つることに決し左の趣旨書を配布したり

即位紀念式慶祝漢城府民會趣旨書

惟今八月廿七日は即我
睿聖文武大皇帝陛下登極あらせられし第一回の慶辰なれば國民祝賀の懽意四表に洋溢せる中我府民は輦轂の下に在りて其慶祝の誠心殊に迫出せり玆に五部四十八坊の士民相率ひて萬歲を慶祝して第一回の慶祝會を提唱す惟我同胞の踴躍して相會せられんことを望む

隆熙二年八月四日
即位紀念慶祝漢城府民會
發起人 兪吉濬

●愛國婦人會と軍隊慰問

韓國に於ける愛國婦人會にては韓國各地駐剳の軍人諸氏に對しては夙に同情を表する所あり各地委員部總會開催の都度守備隊將校を招待して役員夫人之が接待に務め且つ活動寫眞其他公開の場所に將校下士卒を招き活動寫眞會を開きて一夜の慰藉に供し又委員部よりは物品等を贈りて慰問の意を表しつゝあるが京城本部に於ては先以て京城龍山駐在の軍隊二千餘名慰問の爲め先頃本願寺及龍山兵營に於て活動寫眞會を開き茶菓を供し又京城衛戍病院收容の傷病兵に對しては慰問品を寄贈し且つ役員夫人親しく慰問する所ありたるが近時暴徒討伐の爲め各地に駐剳の將卒が昨今の雨期と酷熱の際辛苦艱難を意とせず國家の爲め盡瘁しつゝある現狀に對し一層の同情を表し各地に散在せる數萬の軍人憲兵（一人別）に紀念共なる可きものを其筋の手を經て寄贈せんとの計劃中なるが近日當番幹事の集會協議の上決定する由

●仁川大演說會の盛況

昨日午後六時より豫報の如く仁川歌舞伎座に於て京仁各民間新聞の主催に係る民長官撰反對の政談大演說會を開きたるが非常の盛況を極め既に九時頃に入場を謝絕したる有樣なりきと

●仁川の舟遊會

仁川に於ては不日大舟遊會を催し副統監以下十餘名の統監府員を招待すべき事は既報の如くなるが昨日富田民長、頴原會頭は此旨を傳ふべく副統監に面會の爲め來京し即日歸仁せり

●在韓國學校情況

六月末の調査に係る在韓國小學校の情況を聞くに在外指定學校々數十四、此兒童數五千〇八十二人右以外五十四校此兒童數四千四百五十六人なり而して此外高等女學校四商業學校一、專門學校一、幼稚園七にして學校總數七十九兒童總數約壹萬五百人なりと云ふ

●夏期講習會開會

京城敎育會に於て催せる小學校敎員夏期講習は既報の如く昨日より向ふ三週間京城第一尋常高等小學校に於て開會せり其科目及び講師は左の如し

法制經濟 荻田書記官
手工 上原講師

因みに現在の會員は五十九名なるが講習希望者にして申込むものあるときは入會を許す由なり

●青年會講演會

京城基督靑年會にては明八日午後八時より旭町二丁目メソヂスト敎會に於て第一回講演會を開會する筈にて其講演者及び演題は左の如くにて傍聽は隨意なりと云ふ

法律と宗敎 法學士 梅謙次郎
未定 大審院長 渡邊暢

●安東地方の情況

慶尙北道安東地方は義兵火賊の巢窟とも云ふべき土地柄にして昨年の事變以來各地に蜂起せし反兵暴徒の餘波は延て此の地方各部に波及し警察行政もために一頓挫を來し土地の發展民等の進捗等一として阻害せられざるなく實に寒心に堪へざるものあり今此の地方の狀況を述ぶれば左の如し

▲農業 安東には日本人松原仁作なる者試驗的に桑苗を植付けたるの外外國人の斯業の經營をなせるものなく土着人民の多くは舊慣耕耘法に依り農事に努むるも水利灌漑の法に暗くために大旱强雨に際しては不慮の災害を被るもの少からず而して農作物は米麥粟大豆麻綿等なり副業として少許の養蠶をなし絹を製するものあるも極めて僅少なり今部內に於ける重なる產物を擧ぐれば安東の麻、禮安の絹等にして其の他義城興海松眞寶の各部には米麥綿煙草等の產物ありと雖も只其の地方の需用に充つるに過ぎず

▲工業 此の地方各部共、大工、木挽、製紙製油、鍛冶、銀細工、裁縫、冠物編、合羽、打紐古綿打直し等の工業さへありと雖も何れも其の地方人民の需要を充すに過ぎず

▲商業 地方各部共商業振はず只安東邑內に木綿、麻布、絹布及び牛皮等の仲買商四五名ある外各市場を巡回行商する小商人あるのみ仲買人の多くは小商人に對する卸賣或は副業に製したる木綿麻布絹布等を買收し釜山大邱等の都市に送りて石油燐寸等と交換し此れを行商者に卸賣をなす等其の他海產物たる鹽魚乾魚等の行商者ありと雖も此等は他地方よりの行商人を多とす日本人の商業としては雜貨商安東邑內に七名義城に一名なり其の多くは初め日人の需用を目的とせしも近來に至りては稍々其規模を大にし韓人向の雜貨も共に商ふに至れり（未完）

●湯淺香川縣事務官

漁業視察のため釜山地方に出張中なる香川縣事務官湯淺倉平氏は昨夜南大門着入京し澤田內部書記官の宅に宿泊せし筈

公人私人

▲安藤吉兵衛（平壤林業所長）一昨日出發一時歸朝
▲石田平吉（代議士）一昨日歸朝の途に就く
▲細井愛親（憲兵大尉）一昨日入京山本旅館
▲南部露庵（安東新報社理事）一昨夜南大門着夜行列車にて郷里平戶に歸れり

●慶應義塾行商隊の好況

兩三日前入京したる慶應義塾學生韓行商隊は毎日各官衙等を行商しつゝあるが商品の佳良なると學生に對する同情とにより多大の賣行ありと云ふ

對星樓茶話

△或者曰く一旦官衙の公文として發す之を撤回するは官の威信を損すと、余曰く官衙の公文にして民情に適せず、爲政に資せずんば之を撤去するを以て寧ろ威信を維持するのみ、民長官撰の府令を撤回するは寧ろ威信の回復となる。

△滔々たる俗吏爲政の本躰に就て了解するもの幾人かある。

△漢城には頗る面白き觀測者あり、曰く民長官撰は伊藤系に於て穩和なり、曾禰系に於ては强頑たりと、恐らく日英文用紙より臆斷せしものならん。

△半島縱斷鐵道の全線收入は太田より新義州に至る間の支出に及ばずと及聞候、半島拓殖政策の前途實に遼遠と申す外無く、日露戰鬪當年の形勢に對して吾人は衷心遺恨の念を禁じ能はず候。

△李根澤乃至政權に飢ゑたるものに向つて催眠術を敎授致度候。

●近事片々

▲拓殖 總裁たる宇佐川中將訪客に語る所として世に傳說さるゝ所の梗槪を摘擧せむ
▲曰く 拓殖會社の事業は純然たる營業的に非ざれば最初より多額の配當は甚だ難し
▲雖然 事業の確實なると共に其方法如何に依りては利益を收得すること敢て疑はず
▲唯だ 注意すべきは韓人は日本人の事業とさへ云へば自國に不利益を與ふと誤解す
▲故に 一方に於ては無償にて韓民に種苗を供給し或は農業畜林等に便宜を與へる也
▲最も 困難なるは事業の大にして資本の少許なるにあり之は大に講究するの要あり
▲差當 四分の一拂込貳百五拾萬圓と政府の補助三十萬圓にて總て企圖せざる可らず
▲重役 以下役員選用の如きは尤も愼重を加へ以て督勵して事業を遂行せざる可らず
▲總裁 を始め役員は梅干に握飯にて只管實踐躬行するの覺悟を以て着手するを要す
▲斯く して五年乃至十年の歲月を經過すれば必ず有望なる基礎を築き得べし云々と
▲果し て總裁にして此決心を以て之に從はゞ拓植會社の前途は必ず光榮あるべき也
▲中將 の言はるゝ如く唯憂ふべきは資本の不足なるにあり思切て外資を輸入すべし
▲如何 に敏腕を有し亦抱負を有するも之を經綸する資金なくんば如何ともす可らず
▲曾禰 副統監は各部の日人官吏に冗員多きを以て陶汰すべしとの說あり事實なりや
▲實際 の模樣は隨分冗員あるものゝ如し
▲少く も無能の輩を淘汰して適材を採用することは衆庶の望む所なるべき乎如何にや
▲民長 官選の撤廢請願は終に却下せられたりされど民間有志は默して止まざるなり
▲曾禰 子は双方の意見も定り居る事なれば面談の要なし逆面接せずと御用紙は報ず
▲之が 事實ならば何だか喧嘩腰の挨拶ぶり之では迚も官民一致杯は甚だ難事ならん
▲倫敦 タイムスは土耳古の形勢に鑑み埃及印度等にも同一事件發生せんと警告すと
▲實に タイムスの警告は剴切今や憲政の流行は滔々として各國を振動せしめんとす
▲波斯 に於ても土國の憲政發布を見て氣勢大に昂る淸國暹羅も亦騷ぎ始るならん乎
▲大坂 毎日の海上冒險譚は面白しカロライン群島には今尙ほ無數の樂園的島嶼あり
▲赤道 直下の熱帶島には面白き土蠻の住める島嶼もあらん南洋遠征亦一快事ならん

明治四十一年八月七日 京城新報 (金曜日) 第廿九號 (三)

短編小説

愛（四）

青楓生投

世に人の伎倆を惜んで、我れ一人天晴れ武勳者たらんと、上には諂ひ、下をば苦しむる佞人原、古往今來洋の東西に蔓るのである、此の惡魔のために賢者は黜せられ、忠臣の士は貶せられて、配所の月に、萬斛の涙を呑んで、無限の死を止めたもの、そもや幾人あるであらうか而も現今社會の趨勢は、却て此の稀俗濁の續出を迎ふるは、若々しいことではあるまいか。

ロ、曙町に、春は花咲かねど鳥笑ひ、夏は萬山に翠緑滴たりて、晩涼を趁ふて往き來るさの男女、隙も切らずの南山を南に見て最とも宏壯美觀の一大洋館が、巍峩として天空に異彩を放つて居る。

今白綾の背廣に、赤の襟飾を着け、鼻下に跡髯を生やした、三十許の色の淺黑い、眼底の光つた男が、佛蘭西型の赤靴を踏み鳴らして、店頭に這入つた、是れ別人ならず會社創設以來の古參者二宮哲夫である、抑も彼は佞奸と邪智とに長けた、當世流の才士である、自己が今日の地位を占め獲たのも、凡て此の二個の賜物であつた、幷して常に彼が爪牙の犧牲と倒れたものは實に數知れないのである。

時は眞夏の地も焦げんかと許に、照り渡りて、流石に途行く人も稀であつた日の午後のこと、社長室には、支店長と二宮支配人と相聯んで、其の前にはテーブルを隔てゝ一箇の青年が立つて居る。

「北村君、君を呼んだのは別儀じやないが君は全体此の社へ何にしに來たのじや」二宮支配人は、開口一番侮言を放つのである。

「是はしたり、支配人のれ言葉にも、似合はんことを仰せられますな、僕は無論言ふ迄もなく、唯會社に對する一臂の功を成さんの考へです」

「成程、君の言ふことは、何時も立派じやね北村君、事實は果して左樣であらうか、近頃の風說では、君は或る婦人と關係をしてると云ふことじや、其の結果、心も上の空で事務なさは一向に進行して居らんと云ふじやないか、素より風說に過ぎんさ、だが火の無き處烟……の例もあるからね」

跡髯を捻り乍ら、苦笑を洩らして、

「而も婦人を婦人、藝妓と云ふに至つては僕は君の品性を疑はざるを得ないね」

遂に繁は、默して何事も言はなかつた、

「そう默然て居つちや困るよ、充分物の道理を思考へても見給ひ、今日の藝妓なるものは、君の信ずるやうなものじやない、第一藝妓と云ふ稼業は、婦人の最も恥とする賤業じやないか、そう云うものと關係して貰つちや、會社の名譽に關するから、斷じて止めて呉れ給ゑ」

献せる繁の眼は光つて、憤怒の微は滿面に燃えた、彼は頭を上げて支配人をズツと睨めたが、又俛れるのであつた。

●風呂屋と床屋の輿論

天下の輿論は風呂屋床屋に於て多く聞かるゝものなり紳士商人新聞記者書生勞働者小僧といふ工合に總ゆる階級の者が多人數平民的に集合する場所に於ての無遠慮なる談話はナカ〳〵に趣味多く併せて又謹聽に値すべきもののあり風呂屋床屋に於ける昨今の談話は大方官選民長可否に就ての問題のみを以て持ち切り居れり甲の紳商らしき男は脛毛だらけの双の足を長々と踏み伸ばし盛んに胸のあたりを擦りながら「甚麽だ君民長の官撰とはチヤンチヤラ可笑しいおやないかソンナラ議員も官撰にするが可い併しさうなると人民の立場は如何なるだらうか變手古なものだ子……」乙の新聞記者らしき男は此の間に使ひ掛けの湯をサッと一浴びあびて其の濡れた手拭を膝の上に置き「勿論可笑なものさ第一官憲の奴等の心事が我々にはトント解せない自治制を完全に行つて往く能力のない野蠻國の土人か何かならイザ知らず今日の我々否な居留民に向つてソノやうな權令を發するとは實に怪しからん我々は自巳の天職上タトヒ一身を犧牲に供しても大に官憲と奮鬪する決心だイヤサ此んな問題も偶には起らんと我々は張り合がなくなるよ……」と呵々大笑するさま元氣ナカ〳〵に當るべからず、話變つて今度は床屋の店前二三の職人体の男が先客の刈り終はるを待ちつゝある退屈まぎれに中の一人はしきりにある新聞紙を讀みつゝありしが頓て大に感慨に堪へざる風情にて手にせし新聞を傍に置くや否や腰に挾んだ手拭を手早く外して額の汗をグッと横にふき「オイ源公コッチとらア薩つ張り理は分らねにがよ何んでも朝鮮に居る民長を……官選つてなあ其の……其の官ていふかられ上のことだらうさ……冗談ちやあねゑ笑ふなよ……其の民長をれ上で選ぶんださうだがもしれ上の通りにすると我々人民はまるで木偶見たやうな工合ひになるんださうだつまり其の八ヶ間敷いふとまづ、其の權力がなくなる譯けなんだらうさ俺も七六ケ敷文字はよく分らねーがョ此の新聞を見るとソンナやうな事が書いてあるんだ何んでも其の『命を捨てゝも我々は大に官と戰ふ』とあるんだがナ考へて見ると新聞記者が命を棄てゝ迄もれ上と戰つて男の顏を立てなけりやならねにていふんだから並大体の事柄ぢやあるめね、コッチとらア學問は知らねにがれ前も知つての通り喧嘩は旨いものだ事の次第によつちやア加勢しねにものでもねゑ……ナー源」とあたりも構はぬ高聲にて咄し掛けしに源と呼ばれし職人は蝙蝠印の兩切の煙を無作法に吹かし居りサモ感心せし如き顏色にて聞き居りしが稍やありて「全く其の通りに違わないが午憚俺らア前より先きに新聞で抜ッくの昔知つてらア、ダガ松……コッチとらの出る幕ちやねー、容易にやア命が棄てられたものちやアねーもし甚麽しても命を棄てなきやアならねー破目になつたらソレこうコッチとらー及ばずながら加勢するさ……併しマア今の所は新聞屋に任かして置いた方が可いだらう……」とさも物知りの兄哥風を氣取つての句調源も今は緘默して話しは此れにて全く絕へしが實際風呂屋床屋は一般輿論の展覽會ともいふべきなり

●春風競はず第一樓

ツイ此頃のことであつた何處から宴會の流れらしく黒紹の紋付羽織に仙臺平の袴といふ扮裝にて醉顏を惜げもなく晩風に嬲らせながら泥峴より東を指して人車を急かせた三人の若殿原があつたフト見れば如何にも見覺へある面妾何處へのれ渡りかと人車の行く方に尾いて駈け行きたるに意外にも新町に引入れたのでハテ新町は何樓かと好奇の心ムラ〳〵と起り落着樓を見屆けてこそ手柄もあれと倘ほも追ひ行けばコワ又意外先きなる殿の聲として春風競はず第一樓と高らかに唱ふるや三輛の人車は一齊に第一樓の鐵門を入りて玄關に轅を卸ろされ妓夫がイラッシヤイの聲に迎へられ段梯子をトン〳〵と上る跡より仲居のれ何がアナタ方は殺生ですよ春野さんも二葉さんも今日はれ來なさるか明日はれ來なさるかと四日も五日もジラシてさ春をボンと叩かれて三人は大得意の体にて裏座敷に通りやがて粹な浴衣に着替へ各々敵方たる春野や二葉を侍らせての大散財に南山の山神も耳を蔽ふて逃げ出さんかと疑はれたが此時初の登樓らしき一人の男は君春風競はずなぜ云へどドウして仲々春風競つてるやぶ●●●君の書いた額面が其證據ではないかなんて大氣焔の吐きくらをやる中夜は更けてアイスクリームの呼び聲も淋しく聞ゆる頃各々敵に手を引かれヤー醉たぶ〳〵と蹌踉として紅閨の中に入つた跡は只狼藉たる杯盤を片付る音のみにて四邊は今や綺語喃々鵲の騒ぐ聲に夢を覺され後髪引かるゝ思ひして家路に就たのは泥峴にて見受る或役人であつた

●親の爲め犯人を捜す

中署洞口内七十七統八戸居住李仁成なる者は父なる致德が何かの嫌疑にて過日警視廳に拘引せられてより今日まで放免せられざるより親を思ふ子の心として父の安否に就て非常に心痛し一昨日午後三時銅峴派出所に出頭し父の安否を尋ね放還せられたしと願ひ出たれば當合の巡査は仁成に向ひ若し其方が弘門洞十五統一戸居住康用協なる者を搜索し來らば父を放免すべしと云ひしかば仁成は大に喜び同派出所を飛び出し各所を馳廻りて漸く康を搜し當て午後五時康を引渡したれば派出所より銅峴分署に拘引したるにぞ仁成は早速父を放還さるべしと首を長くして待ち居りしに何ぞ圖らん康は銅峴分署より警視廳訊問課に回送されたるにより審問の上にあらざれば其方の父は放還し難しとのことにて仁成の落膽一方ならず今は只一刻も早く放還せられんことを待ち居れりと云ふ

●パコダ公園の奏樂

關稅局に於ては來る八月十三日の木曜日を初めとし爾後毎週土曜日午後五時より六時三十分迄パコダ公園に於て宮内府樂隊の音樂を演奏し一般公衆の來聽を許すと云ふ

●赤痢

京城壽町一丁目十五番戸松崎宇吉(二十八)は昨日赤痢に罹り大韓醫院に入院治療中

暑中御見舞

編輯小僧

れさん諸君へ

暑さ寒さは一年の附物に候へば、今更らなから暑いとか寒いとかコボシた所で追つ付く譯當には無之候も察する所諸君のれ務めは冬より夏の方が凌ぎよろしかるべきやう被存候夏は御存知の通り日中旦那樣のれ留守中には奥樣も身体のダルさに自づと氣も弛みてゴロリと横になることも有之ソレに又避暑とか歸國とかにつけて旦那樣や奥樣が家を留守にする折も有之候へば從つて諸君の任務もイクラか輕く兼ねて氣遣ひも少なく身も心も安々さるゝことゝ被存候、尤も此の御主人方の留守中及び姿の見ねざる間が諸君に取つて極めて危險なる時にて之を小にしては摘み喰ひやら間食の喰ひ過ぎとなり大にしては自然主義の天罰立ろに來りて因果は宿る狸の腹の毎時の間にやらボテレンチンの木魚講とはなるも不測候一ケ月七圓の月給と見て年には大枚八十四圓半分小遣にした所で四十二圓は殘る勘定三年辛抱すれば充分に嫁入仕度は出來るもの小僧の言を生意氣の言草としてツクれず暑さも寒さも共に同じやう身を謹みて御辛抱の程偏に願入候頓首

(平)(民)(文)(庫)

●●●南大門停車場内で二錢か三錢で客の靴を磨いてやつたら蛇度儲かる而も資本としてはいくらも要らない(小才子男)▲南大門通りで和洋服の古着を買つたら儲かる尤も此れは少しく資本が要る(商賣人)▲二三日前夜更けて翠の藝妓が二三人嬉しさうに何事か囁つて本町通りを歸つて行つたスルト其の後から蜂松と外一人の俳優が尾いて行つたが多分自然劇を實地に演じたのであらう(看板)▲本町六丁目の裏通りに當る某店の番公は第一樓のナップン娼妓に魂を拔かし大分帳尻に穴を明けて居ることを主人は未だ御存知ないかしら(隣の番公)▲昔春樓の妓共二人昨早朝南山町を通行して居つたが何所へ行つたのだらう豈夫朝つパラから好きさんの所へ行つた譯でもあるまい(明鳥)▲統監府の電話手の○○さんはある長官邸の美男子とれ安くないやうだ好い加減に廢めないと免職になるよ(一給仕)▲昨今宋秉畯閣下の權勢はマルデ飛ぶ鳥も落さん許りである出では五六の日本巡査に警護せられ入つては花の如き美形に冊つかる而して其の花の如き美形は長州萩の產ださうだ(ピンデー)▲落語家が當地へ來ないのは甚麽いふ譯だろう關西人許り多く集まつて居る當地にはあまり歡迎されないのか知ら(落語狂)▲僕は南大門外のある遊技屋の内幕を素ツ葉抜こうと思ふが貴紙へ上に掲載して呉れますか(憤慨生)▲載せるか載せぬかは斷言が出來ませんがトモカクも一應原稿を寄越しなさい(編輯新聞綴じ係)▲京城○○教會の某銀縁眼鏡君よ君は聖壇に立ち神の訓へを說くの資格なし何となれば君は内に於て第一樓本店のヒヨツトコ女郎に現を拔かし宗教家にあるまじき行爲を敢て爲しつゝあるに非ずや君以て如何となす(天眼通)▲僕の隣りは鍛冶屋で其の又隣りがブリキ屋で八ケ間しくつて遣り切れない(小間物屋)▲本町座興行中の白川一座の電氣劇の中で僕の氣に入つたのは千本櫻だ諸君行つて見給へ韓國での電氣劇としては一寸珍らしい(見た人)

天氣豫報

(自六日午後六時至七日午後六時)
西の風晴
六日午前六時の地氣象概況
靜穏にして一般に快晴なり

東京淺草觀世音
名物紅梅燒
高等衛生茶用煎餅
中元御進物用に適し腐敗の憂なし
京城南山町二丁目天眞樓前
梅林堂

老妓茶羅次の身上話（七）

◎井上角五郎と怪し浮名

今更隱し立てをしたからつて如何なるもんですか斯樣なつたら洗ひざらいぶちまけてお話をしちまいませう實の所朝吹さんとはお安く無い仲だつたのでムいますよデスから朝吹さんも妾の爲には何かどれ力になつて下さいましたので今でも有り難いと思つて忘れは致しませんワーオツトお逃げなさるなんざアいけませんぜ今度は此方でイヤといふ程惚氣さして頂かなきやア氣が濟みませんからチハヽヽ何時頃でしたらう宜くは覺ねて居ませんが何でも朝吹さんと妾が夢中の頃でした釣堀といふ料理家へ遊びに行きまして一ツ湯を浴びて來やうといふんで二人して風呂場へ這入りますと其頃の巡査が折り巡るく見廻りに參りまして妾と朝吹さんの顏をジロリとにらみ付たのでムいます餘まり宜い氣持は致ませんでしたすると如何したのか何とも言はずに其巡査が其家から出ていつて仕舞つたからホツと太息をつきソロ〳〵と座敷へ返ると女將がやつて來て飛んだ御迷惑でムいましたチ突然に巡査が踏ん込んだのでお知らせ申す暇が無いから一時逃れをいつて胡魔化そうさ——ちやらちやん怒つちやアいけません貴君を我家の雇人の湯女だつていつたんですよ夫れで巡査もソウかといつて歸つちやつたのですが一時は如何仕樣かと思つてハラ〳〵しましたつていふのでせう如何に御面相が御覽の通り二の町に生れついてるからつて湯女は少々酷過ぎるぢやアありませんか——子——可愛相に——ケド其湯女で危い所が助かつたと思や腹も立てませんワチ其當時井上（角五郎）さんとも怪しいといふ評判が立ちましたが此れは無實でソンナ事はありやアしませんすると井上さんが其評判をお聞きになつて何俺がおちやらと關係をつけたと馬鹿な事をいふなソンナ事を言ひ散らされちやア此井上の估券にかゝはるとムキになつて妾に面と向つておつしやるのです隨分殯ちやアありませんか人ツ誰があんな人に……夫れから暫時經つて井の角さんが何かお祝い事があつて彌生で贔負の藝妓に御自分の痘痕に因んだ徽模樣の浴衣を下すつた事がムいます妾も呼ばれて其席に伺つて居りましたが井上さんが妾への言ひ草ツたらありませんヲイちやらお前とは妙な噂を立てられて居るから若し此浴衣をやつて愈々評判を大きくされちやア困る其處で氣の毒だがお前だけは除ものにしたといふのでせう妾だツて蟲がありますからグツと來ましたチ浴衣の一枚や二枚ほしかアありやアしませんが言ひ草が癪にさわりまさアチ——そうぢやありませんか妾だつて迷惑ですワ餘りごう腹でしたから成程そうでございますチけど世間にいくらも痘痕はありますが井上さん——貴方の痘痕なりやア朝吹さんの痘痕ツつきの方が餘ツ程宜いテンデ痘痕の質が違つて言ッて遣ました

●新聞料 ▲一枚金二錢 ▲一ヶ月前金三十五錢 ▲三ヶ月前金壹圓 ▲六ヶ月前金貳圓 ▲郵稅一ヶ月金拾錢
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回四十錢 ▲特別廣告五號活字十九字詰一行金五十錢
發行兼編輯人 秋山忠三郎
印刷人 高木久馬太
發行所 京城西小門通 京城新聞社 電話六六三